



★宇宙関連旅行商品の開発に協力

○…「設立時は全く無名の会社。この2年は知名度向上の時間でもあった」と話すのはPDエアロスペース（名古屋市）社長の緒川修治さん。2014年に有人宇宙機の完成を目指しているが、大きな課題が莫大な費用。その額70億円と試算し、13年までの無人機開発でも7億円強が必要とみている。

○…宇宙開発ベンチャーの資金調達に欠かせないのがスポンサーの存在。これまでに証券会社や自動車部品、サービス業など5社が名乗りを上げ、このほど東邦ガス、

エイチ・アイ・エス（HIS）のスポンサー契約も決まった。「ビジネスプラン審査会で213社中、惜しくも2位だった。だが、その時の審査員がHISの澤田秀雄会長だった」。宇宙関連の旅行商品開発に協力していく考えで「今後は技術やリターンに重きを置いていく」ときっぱり。